

ザンビアのマタニティハウス

～命を守る施設を 地域住民自らが建築できる力を育む～

遠藤幹子／一級建築士、Mother Architecture 代表理事

アフリカのサハラ以南地域のザンビア共和国、未だ妊産婦死亡率が日本の 40 倍である農村地域で、国際協力 NGO ジョイセフが「妊産婦支援プロジェクト」を現地 NGO、外務省、民間企業ほか、多数の協力によって 2011 年から実施してきた。一級建築士の遠藤幹子は、「妊産婦支援プロジェクト」の一環として実施された安全なお産のための施設「マタニティハウス（出産待機ハウス）」の企画・設計デザインを専門家として担っている。

課題

国連のミレニアム開発目標（MDG's）でも近年の最重要項目として掲げられているとおり、妊産婦死亡の低減は乳幼児死亡や貧困などの負の連鎖を断ち切るために、早急に解決すべき課題である。ザンビアの農村部でも、いざ陣痛が始まって助産士のいる診療所までは徒歩何時間もかかってしまうため、衛生状態の悪い自宅での専門家なしの出産が多く行われおり、緊急時の手当不足などにより未だ多くの命が失われている。新たな診療所の増設が現実的に難しいなか、既存の診療所へいかに多くの妊産婦を呼び込むかが解決の鍵である。



手法

●コミュニティ人材の育成

国際協力 NGO ジョイセフの「妊産婦支援プロジェクト」では、ザンビアの農村地域でコミュニティ・ヘルス・ワーカー（母子保健推進員）を育成し、彼らの教育啓発活動を通じて村人たちの診療所での妊産婦健診や出産を促進する活動を行っている。

●マタニティハウスの計画

コミュニティ・ヘルスワーカーの人材を活用し、より多くの妊産婦を診療所に呼び込むため、助産士のいる診療所の隣に予定日の2週間前から無料宿泊できる「マタニティハウス」の建築計画が2011年から始まった。いざ陣痛が始まったらすぐに助産士の適切な処置を受けられるための、妊婦たちの滞在場所の提供が目的である。

●使用済みコンテナの再利用

低予算で迅速に建設するため、日本からの物資輸送に使われたコンテナを再利用して建物は作られている。このサステナブルな物語は多くの賛同を得ており、支援者の獲得にも貢献している。

●住民参加によるペインティング・ワークショップ

愛着を育て施設の有効性を広く周知するため、住民の手でコンテナを楽しく彩って建物を完成させるワークショップを行い、完成後には村人や要人が集まる盛大なセレモニーが開かれている。

●歌と踊り、デザインガイドブックにより教育普及活動

外部援助の終了後も自ら計画を進められるよう、一連の計画プロセスを楽しく覚えるための歌と踊りを作り、デザインガイドブックや模型キットを使って村々に普及する活動を行っている。



生み出した価値

Empowerするデザイン

社会問題の解決には当事者である地域住民の行動力が欠かせない。彼らを建築計画の担い手として育成するこの手法は、その潜在能力を引き上げ、自信と主体性を大きく伸ばすことに貢献している。



コミュニティが主体

地域住民が主体となることで、彼らの施設への責任意識が芽生え、完成後も主体的な運営参加が行われている。また外部建築家では読み取れない土地風土情報を的確に反影でき、より使いやすい建築計画が実現している。



クリエイティブ・リユース

「あるものを自分たちの手で仕立て直す」という知恵は、急速な都市化が進み資本なしでは必要施設を作れないという村人の劣等感を排除し、彼らのチャレンジ精神とモチベーションアップに大いに貢献している。



知恵のフィードバック

「ないものは自分で作る」「大事なことは歌や踊りで教える」という彼らのプリミティブな創造力は、先進国の我々にも大きな勇気を与え、日本の災害支援や地域デザイン従事者から手法参照の要請が多く寄せられている。



オープン・シェア

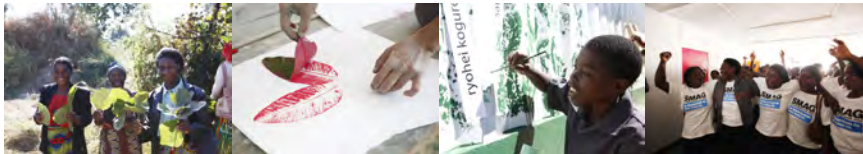
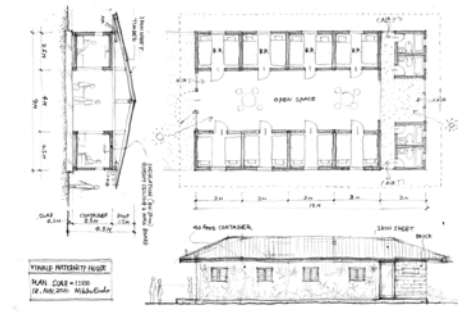
物やお金は使ったら終わりだが知恵は他者へ伝えることで更なる問題をする。住民自らが伝達媒体となって方法論を拡散することで、専門家による知恵の専有からオープンにシェアする時代を切り拓いている。



マタニティハウスの試み

2011年 フィワレ村

2011年6月完成 / ザンビア、コッパーベルト州マサイティ郡フィワレ村
出資はユニクロなどの民間企業や個人寄付。支援者の賛同意欲を高めるデザインと、安く迅速に建てるのが求められた。日本からの支援物資輸送に使うコンテナを2台配置して中にベッドルームを設け、その間に妊産婦たちが交流できるラウンジと、背後にレンガ壁のバスルームを設けた。「古いコンテナは汚いから人が来ないのでは」という現地の不安を解消するため、地域住民100人を集めて外壁を美しく彩り愛着を持てるハウスに仕上げるワークショップを開催した。思い思いに摘んだ葉っぱをスタンプし、日本の支援者100名の名を書き込む盛大なイベントは多くの目にとまり、テレビや新聞のない地域における施設意義の周知に大いに役立った。また建物を自分達の手で完成させたことは彼らの大きな自信につながり、歌と踊りによる壮大なセレモニーが開かれた。開設後には多くの妊婦が滞りし、施設分娩の割合は2010年の32.8%から2013年の45.0%へと増加している。



2013年 ムコルウェ村

2013年11月完成 / ザンビア、コッパーベルト州マサイティ郡ムコルウェ村
コンテナ1台を使った縮小版の建設。「隣村の二番煎じ」のイメージでモチベーションを下げないため、外壁デザインを住民から募る試みを新たに行った。「自転車に乗って施設へ向かう妊婦」「産前検診を受け安全な施設分娩を行う」など、彼らの出した施設分娩の効能についてのメッセージ図案を見栄えよくまとめることが問われた。線画、色塗り、柄付けなどそれぞれの得意作業によって役割分担して仕上げた外壁は、誰もが一目でその意味を理解できる素晴らしいものとなり、参加者は我が子のように建物を愛し、今でも人手不足の施設を手伝いに無償で通ってきている。また、他の村の計画を彼らができるようにワークショップを開き、敷地に合わせた配置案を模型と図面にまとめて建設業者に伝えるスキルを伝授した。「エントランスはアプローチに向かって開く」「プライバシーの必要な部屋は奥に」などの重要ポイントを彼らは歌と踊りにして覚え、次の計画案にそれらを完璧に反響し、驚くべき学習意欲と責任意識を見せてくれた。



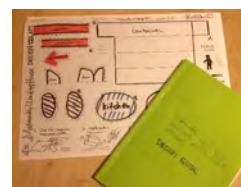
2015年 ムタバ村

2015年9月完成予定 / ザンビア、コッパーベルト州マサイティ郡ムタバ村
外務省の支援により新たに始まった3計画の1つ。歌と模型を使ったワークショップでは、住民のアイデアを配置計画に的確に迅速に反響することができた。また9月予定のワークショップには前の村の経験者がペインティングの手法を伝授する予定であり、着実にこの参加型の計画手法が実を結んできている。



まだまだ続く

2016年カルウェオ村、2017年ミカタ村と新たに2カ所での計画が予定されており、またより広い地域で手法を展開するためのデザインガイドブックと模型キットも制作中である。



繰り広げられるものがたり



まさか葉っぱでコンテナが生まれ変わるとは！初めての作業に興奮する人々。



学校帰りの子どもたちも立ち寄り、楽しくペインティングに参加してくれました。



皆で手を貸しあいながら、葉っぱのスタンプを完成させてゆきます。



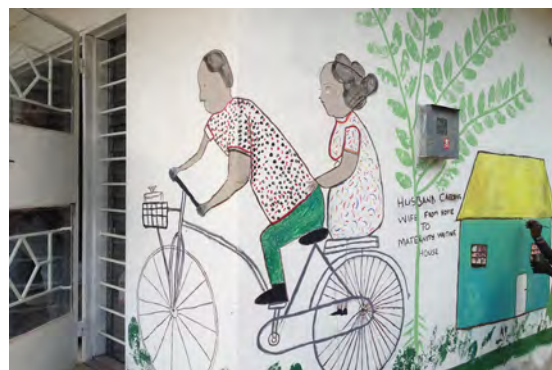
施設分娩がなぜ重要か、建物のファサードが人々の命を救うメッセージを伝えます。



初めてのペインティング。みな真剣に、心を込めて筆を進めます。



セレモニーでは、全ての参加者が盛大に歌って踊って、完成の喜びを分かち合いました。



「自転車に乗せて奥さんを施設まで運ぶところ。」
男性の協力が不可欠というメッセージも、壁に描かれます。



「私たちが欲しいのは命を救う知恵。それはどんなに使っても無くならず、
広く伝えれば伝えるほど、多くの命を救い続けることができる。」

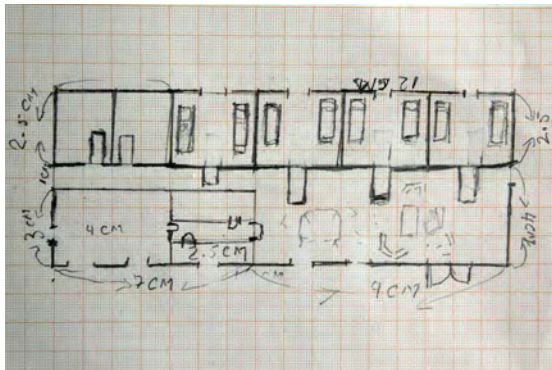
繰り広げられるものがたり



次の予定地のムタバ村からは、赤ん坊連れの女性がワークショップに参加してくれました。



壁に描きたいメッセージについて、村の人々に考えて下絵を作ってもらいました。



3時間のワークショップで彼らが習得した、平面図の書き方。



初めての作図と模型づくり。グループで話し合いながら、プランを練ります。



敷地に合わせて機能をどう配置すればよいか、キットを使って誰でも簡単に考えられます。



次の予定地のムタバ村の配置プラン。それぞれ考えた理由を発表しました。



たった3時間のワークショップで、平面図の書き方から配置計画まで、
彼らは完璧に習得してくれました。



施設計画のプロセスと忘れてはならない重要ポイントを、
歌と踊りにしてみんなで覚えしました。

リンク

一般社団法人マザー・アーキテクチャ <http://www.mother-architecture.org>

公益財団法人ジョイセフ http://www.joicfp.or.jp/jp/activity/where/zambia_project/

Youtube動画
是非ご覧
下さい！



<http://goo.gl/D640ID>